

# ONE WORLD Info

英語教育 通信  
2019 Autumn

**特集** 生徒の“伝える力”の向上のために  
“Active Sharing”を大切にした教育実践  
…大阪府交野市立第四中学校  
スピーキングテストの実践…崎濱 功美

**連載**  
Culture Notes Plus vol.3 シンガポール  
英語教育なんでも相談室05…本多 敏幸  
とっておきの英語18…野田 小枝子  
今ドキ英語事情20…Peter J. Collins



教育出版



教科書のCulture Notesの番外編として、海外のリアルな情報をお届けします。第3回はメイの出身国、シンガポールの学校行事について。多文化国家・シンガポールのお国柄は、学校行事のあり方にも表れているようです。果たしてそれはどのようなものなのでしょうか。

## シンガポールの『多文化主義』は学校行事にも

### シンガポールの学校行事



筆者がOpen Houseを見学した学校



展示に興味津々の子どもたち

シンガポールでも、修学旅行や運動会など、日本でも馴染みのある学校行事が取り入れられていますが、大抵は全員参加としての行事ではなく、相応のプログラムを習得中の生徒や、運動能力的に選ばれた生徒たちが主体となって参加する行事として行われます。全員参加主義ではないところが、様々な文化が混在しつつ競争社会が根付いているシンガポールならではの感じます。

学校全体で取り組む代表的な行事として各学校で毎年開催されている“Open House”というものがあります。その名の通り一般に向けた開校日なのですが、主に小学校5・6年生とその保護者に向けた学校見学会です。

シンガポールでは原則として全ての国民が公立の小学校に通い、6年生の最後に“PSLE(Primary School Leaving Examination)”という小学校卒業資格を取得するための国家試験を受験します。そして、その結果によりそれぞれに相応しい中学校に進学していくシステムになっています。生徒それぞれが自分のアカデミックレベルに合った学校、目指す分野のプログラムが整った学校を模索しな

がら、“Open House”を巡り、行きたい学校を絞っていくのです。

“Open House”では、校長先生のスピーチ、在校生によるスクールツアー、各部活動のパフォーマンス等が行われます。その他、各教室やホール等の校舎全体を使って振り分けられたブースで、全在校生たちによる学校アピールのプレゼン活動も。各部活動チーム、生徒会運営チーム、各教科や学校独自のプログラムをアピールするチーム、それぞれチームに分かれ会場を飾りつけ、お菓子やジュースを用意したり、ワークショップを開催したりして、来場者を楽しませ、前年度の活動結果などを含んだ活動の詳細を説明します。

生徒たちが生活の大半を過ごしている場所で、力を尽くしている活動を振り返り、来場者へ目に見える形で情報を提供する“Open House”は、「個を確立し社会と繋がること」を実現した、多文化国家シンガポールならではの学校行事だと興味深く感じています。

(写真・文：草壁 圭紀)

# “Active Sharing”を大切にした 教育実践

～大阪府交野市立第四中学校の取り組み～

交野市立第四中学校は、通常学級14クラス、特別支援学級3クラス（生徒数504名）の学校である。校区には、岩船、藤が尾、私市の3つの小学校があり、この3校に本校を含めて「天の川学園」とし、9年間の学習指導と生活指導の円滑な接続を図るために、綿密な合同会議や授業交流を進めている。

英語の授業は、4年ほど前からAll in Englishで指導しており、1年次のみ、習熟度別の少人数による授業を行っている。1、2年次には、週1回ALTとJETのT.T.の授業があり、ALTとのコミュニケーション活動や英語を英語で学ぶ機会を増やす目的で、GCS（Global Communication Space）という放課後の活動も行っている。生徒の英語学習への意識の変化は、この4年間で実用英語技能検定2級を取得する生徒数の増加にも表れている。

以下、四中としてチームで取り組んでいること、筆者が普段の授業で意識して取り組んでいることについて紹介する。



## ●“チーム四中”としての取り組み

「いっぺんやってみよう」というのが四中の合言葉。森島良裕校長の着任以来、本校は大きく変化した。3年前までは生徒指導上困難な面があり、落ち着いて学ぶ集団とは程遠い状況であった。生徒が安心して学べる「学び舎」にするには、学校生活の中で一番長い時間を占める「授業」の改善こそが重要であると考え、改革に着手した。「面白い授業」＝「腑に落ちる・ためになる授業」と捉え、各教科、全教員で取り組む「道徳」、3年間を通した「人権学習」の指導に重点的に取り組んできた。

府内外問わず、20校ほどの先進校視察を行い、視察で得た情報の共有を徹底することで授業改善に役立ててきた。これらの取り組みを経て、授業アンケートや保護者対象の教育アンケートの結果は著しく向上し、全国学力・学習状況調査と大阪府チャレンジテストの数値も上昇してきている。

一昨年、大阪府から「STF（主体的・対話的で深い学び）研究学校」に指定され、昨年度は、優秀教職員等表彰を受けることができた。11月には兵庫県尼崎市より、多数の教職員及び尼崎市教育委員会の方々が授業視察のために来校した。このような形で本校が目ざされ、我々の取り組みが評価されることは、教員をはじめ生徒たちにも良い刺激となっている。

---

## ●「活動あって学びなし」にならないために

---

英語の授業ではゲームやお遊びのような活動が中心にならないように気をつけている。活動自体が目的にならないように留意し、学びのある授業作りを心がけている。そのための5つのポイントを以下に紹介する。

### ① 身近でリアルな場面設定

単元終了後に何ができるようになるのかを明確にした「(必然性があり身近な事柄)について、○○できるようにする」など、目的を設定する。

活動を単なるゲームとして行っている場合と、本当にその人のことを知るために行う言語活動ではコミュニケーション活動として大きな違いがある。実生活に近いリアルな場面設定(地域の地図を活用した道案内など)や、実用性があること、生徒が使いたくなるような英語表現を使わせることにより、リアルなシチュエーションが生まれ、生徒が臨場感を持って活動に取り組むことができるようになる。

決まった表現を繰り返して言うだけの活動ばかりになってしまうと、生徒はすぐ飽きてしまうし、リアリティーに欠けてしまい、自分の言葉ではなく借り物の表現になってしまう。

話し手が自分の思いを自分の言葉で発信できるようにするには、目的、場面、状況の設定が必要である。また活動の中で、Reaction, Prosody, Facial Expressionを生徒に意識させるようにしている。そのようにすることで、言葉としての英語の指導が生まれる。

### ② Support Languageを常に提示すること

生徒の学力は様々である。英語が得意な生徒と苦手意識がある生徒がペアで活動する場合、必要な手立ては何かを考えることが大切になる。苦手意識がある生徒にとって一番の不安は間違えることである。その不安を解消するために、Support Languageを提示し、安心して活動に取り組むことができるようにしている。また、それぞれの活動の中に必ずscaffolding(足場)を設定するようにし、各レベルに応

じて異なった課題解決に役立つ情報や補助を与えることにより、生徒が安心して言語活動に取り組むことができるように心がけている。

### ③ 必ずShareすること

以前は、生徒が言語材料を使った活動で盛り上がり楽しく取り組むことだけで満足していた部分があった。英語で活動することが目的になっていたのかもしれない。教師が十分な見取りをできていない場合は、生徒たち自身では間違った使用に気づかず、そのままの表現を覚えてしまうようなこともあった。

そこで、確かな学力育成のための方策として、生徒に発表させたり、班で発表をさせたりした後に、“What are the common mistakes?”(共通の間違いは何?) “What is the important point?”(大切なことは何?)等、発表された内容や使用された言語構造について尋ね振り返らせるようにした。大切なことを共有(share)することで、定着してほしい言語材料の再確認をすることができ、友達の発表から学びながら、自分が言いたい表現をいくつも見つけることができるようになった。友達が使った良い表現や面白い内容をshareすることで、お互いを知り成長することにつながってきているようである。

### ④ 一度出てきた言語材料に何度も出会わせる

単語や文法の定着を図るためには、何度もそれらの表現に出会わせることが大切である。実際に使用することで、充実感・達成感を与えることも可能となる。豊かな英語体験を与えることこそが大切なのである。「英語が話せる」という自信を生徒に持たせる学習環境を提供する責任は教師にあると考える。

普通の授業の活動で使う教材を家庭学習でも使用できるように工夫をしている。家庭学習としてReuseすることで、既習の単語や文法の定着が起りやすくなる。また、小テストや定期テストにおいても使用することで、一度きりの使い捨てではなく、繰り返し活用できる教材にすることができる。

小テストや定期テストは、授業で学んだことを確かめるものと位置づけ、日頃やっていないことをテストで出題することはしない。塾に行っている生徒だけが有利にならないように、生徒全員が受ける授

業をベースにしたテストを作成するようにしている。ただし、定期テストでは、教科書に載っているものだけでなく、初見の英文も活用するように工夫している。記憶力に頼らない本当の学力の育成を目指しているからである。

### ⑤ できるようになったと実感できる機会を与える

年5回のパフォーマンステストを実施しているが、生徒が自分の英語力を発揮・実感する機会になっている。「英語は度胸!」という言葉キーワードにして、日頃の授業に取り組んでいるが、パフォーマンステストでは、文法も発音も完璧である必要はない。間違いを恐れず、自分の思いを積極的に英語で伝えようとする気持ちを大切にしている。パフォーマンステストのやり取りの中で、「自分の英語が伝わった」「英語で会話ができた」という成功体験を積むことが、英語を話すことに対する抵抗感をなくすことにもつながると考えるからである。

パフォーマンステストは毎回ビデオで録画し、「良かった点」「間違いやすい点」「個々の弱点」などを教師が分析し、その映像を生徒とshareしながら振り返りの機会を持つようにしている。「良かった点」「間違いやすい点」などを自身や友達のビデオから学ぶことで、自らのパフォーマンスを省察し、間違いや弱点を知り、自分で修正していけるような指導を行うようにしている。



パフォーマンステスト以外にも、毎授業、生徒が順番で small teacher になり、Greeting, Today's goal, Today's menu の板書と発表を担当し、欠席者等の報告も英語で行うようにしている。振り返りの時間にも、授業の学びと感想を英語でクラス全体とshareする機会を持っている。生徒は、自分の思いや考えを

伝えるために工夫をしながら取り組み、考えが伝わったときの喜びを実感しているようである。

### ●教師として授業で大切にしたいこと

教師自らの英語のブラッシュアップは、英語の授業の中でできると考えている。毎時間、英語を使う機会があると肯定的に捉えれば良いはずである。All in Englishで授業は行っているが、評価や複雑な文法事項について説明を行う際には、日本語を使うこともある。そのような場合でも、同じことを簡単な英語で説明するようにしている。

研究授業でも特別なことはせず、普通の授業を披露する。研究授業は、教師の英語や指導スキルではなく生徒の日ごろの学習の様子を見てもらう場所だと考えるからである。授業は全てつながっている。研究授業のときだけ特別なことをやるというのは変な話である。日々の積み重ねで身につけた力をそのまま発揮するのが研究授業であるべきである。

また、定期テスト前の授業を自習にしたり、余った時間にワークをさせたりするなどの単発の指導は好ましいものではない。毎時間、全ての授業を大切にしたい。友達や教師がいるからこそ可能な学びの機会として授業を捉えるべきだと考えるからである。

最後になるが、どれだけ教材研究に時間を費やしても、思い通りにいかないこともある。思い通りにいかないことがあるからこそうまくいったときの喜びや達成感を感じることができるし、失敗を受け入れて、試行錯誤し、修正し続けようと思えるのである。失敗も、授業改善の過程においては必要であったと後で分かることも多い。大切なことは、生徒と一緒に多くのことを学んでいくことである。

本校では学年や教科を超えた横のつながりを積極的に作っている。授業力向上のために、空き時間には他教員の授業参観をするようにし、各教科で良い教材をshareするだけでなく、どのように使用されたのか、そのときの生徒の反応・成果や課題、そして、指導上の問題などを共有するようにしている。そうすることでより良いものが生まれ、生徒に返せるものが多くなると手ごたえとして感じている。

「チーム四中」として教職員がスクラムを組み、

子ども達に「いっぺんやってみよう」という心を根づかせ、主体的な学びが生まれる学校作りを目指したいと強く願っている。その過程にこそ私たち教師にとっての“学び”と“喜び”もあるのである。

(文責：大阪府交野市立第四中学校 川本 昂)



## 教師集団として授業改善を進める四中の強み

文教大学 金森 強

交野市立第四中学校を訪れて最初に気づいたのは、生徒の挨拶のすばらしさである。廊下ですれ違うとき、どの生徒も温かい声で丁寧に挨拶してくれる。これまで訪れた多くの学校では、不必要に大きな声の挨拶であったり、はっきりと聞きとれない適当な挨拶だったりすることが多かったように思う。コーヒーの香りが漂う校長室にたどりつくまでのほんの数分の間に、とても心地よい気持ちになることができたのは、生徒たちの素敵な挨拶があったからである。

英語の授業では、生徒の二つの姿がはっきりと見られた。教師の話・指導にしっかりと耳を傾け考えときの落ち着いた「静の姿」と、活動を行う際の積極的に取り組む「動の姿」である。教師との信頼関係が十分にできているからこそ生まれる「学びの集団」の姿である。教師の指示に適切に反応しながら、様々な活動に主体的に取り組む姿は、安心して学ぶことができる「学び舎」作りに向けた先生方のこれまでの取り組みの成果に他ならない。

英語で進められる授業ではあるが、ICTを効果的に使用し、飽きさせない工夫や発信したくなる手立てがちりばめられており、生徒は、ほとんど抵抗を感じずに授業に向かうことができている。Teacher Talkとしての英語使用にも十分な配慮がなされており、教師の独りよがりの英語使用になっていない点がすばらしい。入念な教材研究に加えて、生徒の心の動きを予想した授業運び（段取り）までも周到に準備されていることが分かる。毎回、このような授業を作るには相当の時間と労力が必要となるはずであるが、指導している本人は意外と苦には感じていないようであった。

教師集団として授業改善に取り組める風土があることが四中の強みである。良い取り組みは、地域の他の中学校にも必ず広がっていくはずである。交野市では、様々な視点からの英語教育改革を進めているが、教室から広がる授業改革こそが効果的なはずである。

小学校で英語が教科化されることになったが、小学校で英語に触れる時間は、各地域の移行期間の取り組みによって、今後4年間、毎年異なることが予想される。小中接続を進めるための工夫が求められる所以である。しっかりと準備をしておかないと、大きな問題となって表れることが懸念される。この点においても、四中の英語教員は、積極的に小学校教員の研修に参加し、自分たちがなすべきことを真剣に考えてくれている。今後、小中の接続においても大きな期待ができそうである。

# スピーキングテストの実践

～評価基準表とタスクの作成について～



沖縄県今帰仁村立今帰仁中学校  
崎濱 功美

## ●パフォーマンステストの広がり (実態調査より)

文部科学省による平成28年度「英語教育実施状況調査」によると、スピーキングやライティング等のパフォーマンステストの実施率は、中学校すべての学年で95%以上の数値を示しています。スピーキングテストの内容としては、スピーチ42.1%、インタビュー（面接）35.9%、プレゼンテーション17.8%などが挙げられています。

パフォーマンステストの導入および実践が急速に広がりを見せる中、本稿では、特に「即興で表現する」スピーキングテストに焦点を当て、それを評価する評価基準表とタスクの作成についての事例をご紹介します。

## ●スピーキングテストの現状 (個人的背景)

多くの生徒にとってテストは、負担やストレスのかかる嫌なものではないでしょうか。スピーキングテストは、特に緊張するものです。単元終了直後のテストとなると大抵は、インタビューの内容を生徒自身が予想することが可能となることの方が多く、「即興で表現する」という点では、テストの信頼性に疑問が残ります。このような場合、生徒自身もテストの有用性を感じることができないこともあるでしょう。スピーキングテストの実践が進む中で、最も課題となるのが、やはり「評価」の信頼性と基準

です。本校でもCAN-DOリストによって、身につけさせたいスピーキング力を明確に示し、授業改善を進めています。しかし実際の授業やテストでは、「何ができるようになるのか」といった最終目標であるゴールが不明確な場合もあり、指導と評価にズレが生じることも多々見られます。さらに、スピーキング力をどう評価するかについては、教師間でそれぞれ異なった基準を持っているため、評価においては、ばらつきが見られるのが現状です。

生徒のスピーキング力を適切に評価するために、どのような基準で評価するのか、またどのような課題（タスク）においてその能力を引き出すことができるのかについて、次項で述べていきます。

## ●評価基準表とタスクの作成

### ・評価基準表

教師それぞれが持つ評価基準をある程度、一貫性があり汎用的な評価基準にできないものかと考え、独自に評価基準の作成に努めてみました。作成にあたっては、学習指導要領に深く関わりのある「ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR)」、スピーキングの口頭試問試験Oral Proficiency Interviewで有名な「ACTFL言語運用能力基準 (ACTFL-OPI)」を参考にしました。さらに『HOPE中高生のための英語スピーキングテスト』は、先行事例として検証も行いました。既存の評価基準表を参考にする理由としては、教師の主観的な評価を組み込まないようにして、よ

り信頼性のある評価基準表作成を目指すためです。既存の評価基準をもとに作成した独自の評価基準表は、「話すこと」の「発表」に焦点化し、下記表1の通り、スピーキング力を評価する観点4つの下位項目「言語機能・トピック」「発音・強勢・イントネーション」「語彙・文型・複雑さ」「流暢さ・態度」に絞りました。スピーキングレベルは下位1から上位5までの5段階としました。

本稿では、レベル1のベンチマーク(HOPE評価基準表参考)を示しています。

表1 評価基準表 レベル1

言語機能 トピック	与えられた絵や身近な話題についての内容に限定される。慣れ親しんだ語彙をきっかけにして、ごく身近なよく知っているものの名前を挙げたりすることができる。
発音 強勢 イントネーション	不明瞭な発音や強勢があり、理解されない場合がある。
語彙 文型 複雑さ	基礎的な単語が中心である。決まった表現や簡単な定型文も時折用いる。決まった表現を除く発話においては、不適切な文法も多くエラーが多い。実際の言語の働きを果たす文法能力を持たない。
流暢さ 態度	発話はゆっくりで沈黙も多い。中断が多く、発話が途切れることもあり、断片的である。

評価方法は、まず4つの観点で5段階に評価していきます。観点の評価を総合的に判断しながら最後に能力レベルを決定するものとしました。一見、各観点の得点を積み上げて評価していくことで、独立して評価するように捉えられますが、各々の観点の評価と並行してレベルを決定していくことから分析的評価と総合的評価の併用の形となるようにしました。

### ・タスクのデザイン

学習指導要領は「即興で表現する力」を強調し、4技能統合的な指導を展開することを強く求めています。タスクは、まさに自然かつ容易にコミュニケーションの場面を作り出すことができ、「ダイナミックな意味の表出とやり取りのプロセスを生徒に直接、経験させることができます」松村(2017)。タスクについては、松村が示すタスクの4つの条件に基づいて作成しました。

表2 タスクの4条件

	タスク A	タスク B
活動成果の重視	絵における場面を想像し、明確に伝える	場面を想像し絵における問題を相手に分かるよう明確に伝える
意味へのフォーカス	情報伝達	詳細な情報伝達
認知プロセス	描写	描写、照合・組み合わせ
学習者の主体的関与	絵についての場面・状況への主体的関与	絵についての場面・状況への主体的関与

タスクのデザインとしては、A、Bの2つのパターンを考え、それぞれ2種類ずつ作成し、合計4枚の絵を準備しました。これらのタスクは、描写 (description) および問題解決型 (problem solving)のタスクです。

図1 タスクA1



図2 タスクA2



タスクA1とA2 (図1, 2)は、生徒が自由に多くの事物について描写ができるようなタスクであり、生徒に親しみのある単語や文で表現できると予

測されるさまざまな事物を組み込みました。

図3 タスクB1

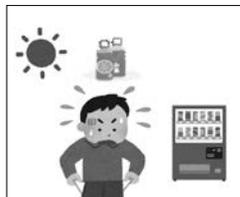
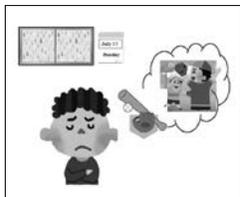


図4 タスクB2



一方、タスクB1、B2(図3、4)では、ある状況を生徒自らが想定、判断し、ストーリー性を持ち合わせながら、詳細に説明できるような内容としました。

### ●スピーキングテストの実施(事前検証)

評価基準表とタスクの活用について、事前検証を3回実施しました。ここでは、最終の検証内容とその結果について言及します。

検証は、本校に在学する1学年から3学年までの生徒12名を対象とし、すべての生徒に対して同じ方法でテストが実施されるよう、また教師の発話量を常に一定に保つために、教師用スクリプトを用意しました。また、教師の英語による指示や説明と同時に、タブレットで日本語訳も提示しました。テストは、最初に簡単な挨拶や会話から始め、その後、A、B両方のタスクについて話すという流れで行いました。評価は、評価基準表をもとにその場で行い、評価に曖昧さを感じた生徒については、ICレコーダーで録音した発話の掘り起こし作業を行い、再度、評価しました。検証後は、評価基準表とタスクの見直しをして、再編していきました。

さらに、複数の教師が同一の生徒の発話に対して同じ評価を与えるか否かを比較するための評価者内信頼性(inter-rater reliability)も検証しました。同地区、他校で中学校英語教師として勤務している3名に評価基準表とタスク、生徒の発話データを配付し、独自で評価していただきました。評価結果から、3名の評価に大きな差は見られませんでした。しかし、教師間で評価が曖昧となった発話もあったことから、今後はレベルごとの発話サンプルを補助資料として付加した評価基準表の編成に努める必要があります。

す。評価基準表は、ある程度のレベルの詳細は記されていますが、継続して改良、再編していきたいと考えています。

実際に本評価基準表とタスクを用いて担当学年である1年生に、スピーキングテストを行いました。実施後のアンケート結果(1クラス抽出)によると、78.2%の生徒が「スピーキングテストにチャレンジしてみたい」とテストを意欲的に捉えていることが分かり、また「もっと英語を話せるように、授業で頑張りたい」というプラスの波及効果(backwash effect)があったと実感しました。

日々の授業改善をしっかりと行いながら、生徒が目標を持って挑戦したい、何度もチャレンジしたいと思うような有用性のあるスピーキングテストの実践を継続していきたくです。

### ●スピーキングテストが目指すもの(波及効果)

スピーキングテストの実践は、英語教師、また生徒にとって非常に有益な波及効果があると考えられます。テストの実施に伴い、教師間で「話す」領域における指導をどのように行っていくか、といったスピーキング指導の重要性を認識することができたからです。これは、教師側の指導と評価の一体化といった前向きな波及効果であり、大転換期を迎えた今の英語教育活動において大きな意識の変容となると信じています。一方、生徒にとってもスピーキングに対する関心は高まりつつあります。スピーキング力向上を目指し、授業をはじめとする英語学習全般の意欲喚起に今後つながることが期待できます。

3年間継続して取り組んできたスピーキングテストの実践は、今後も同地区、英語教師の仲間たちの協力を得ながら進めていきたくと考えています。

#### 【参考文献】

- 今井裕之・吉田達弘 編著、兵庫教育大学HOPE開発プロジェクト 著(2007)『HOPE中高生のための英語スピーキングテスト』教育出版
- 松村昌紀(2012)『タスクを活用した英語授業のデザイン』大修館書店
- 松村昌紀(2017)『タスク・ベースの英語指導 TBLTの理解と実践』大修館書店
- 文部科学省(2016)平成28年度「英語教育実施状況調査」

# 英語教育 なんでも相談室

05

東京都千代田区立九段中等教育学校  
指導教諭 本多 敏幸

中央教育審議会教育課程部会  
外国語ワーキンググループ委員。  
ELEC同友会英語教育学会会長、  
英語授業研究会理事。

ONE WORLDの著者である本多先生が、  
現場の先生方のお悩みになんでもお答えする連載です。  
今回寄せられたのは単語テストについてのお悩みです。  
本多先生、よろしくお祈りします！



今回のご相談

効果的な単語テストの実施方法はどのようなものでしょうか。  
また、生徒同士での採点はミスが起きやすいので、避けた方が  
よい、あるいは評価に入れない方がよいのでしょうか。

## 1. 語彙の定着

教科書の各パートには、通常いくつかの新出語句が使われています。これらを定着させるためにパートごとあるいは単元ごとに単語テストを行っている先生方もいらっしゃると思います。まず、1つの語についてどのような指導項目があるか考えてみましょう。主な項目を思いつكماま挙げてみます。

- ・品詞
- ・発音やアクセント
- ・意味（訳語を示す場合が多いが、その語の持つイメージを示す場合もある）
- ・綴り
- ・同じような意味を持つ他の語との違い（例：byとuntilとの違い）
- ・他の語との組み合わせの例（コロケーション）
- ・その語が含まれるイディオム
- ・関連する語（同義語、対義語、類義語など）

- ・語形変化（動詞の変化形、名詞の複数形、形容詞の比較級・最上級など）
  - ・その語を含む例文
- このように挙げてみると指導することはたくさんあります。

新しい『学習指導要領解説』には、「聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき語彙（受容語彙）と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき語彙（発信語彙）」の記述があり、すべての語彙を発信できるようにすることは求められていません。つまり、綴りまで覚えさせる必要のない語もあるということです。

教科書に載っている語彙を指導する際、そのすべてを一律に扱う必要はありません。前述した指導項目のうちの何をどのように指導するのかということを教師が判断します。しっかりと定着させなくてはならない語彙もあれば、簡単に扱うもの

もあります。

単語が定着するかどうかは、その単語に何度出会うかで決まります。いくら単語テストを行い、そのときは正しく書けるようになったとしても、時が経ち、その単語に触れることがなければ、当然忘れてしまいます。したがって、しっかり覚えさせたいと思う語句であれば、生徒に意識的に触れさせる、使わせるなどの工夫が必要となります。

教科書に出てきた語彙を定着させるために有効な方法のひとつが音読でしょう。文章の理解の後に行う音読により、「発音やアクセント」「他の語との組み合わせ」「意味」は体得させられます。また、綴りまで覚えさせたい場合には、単語テストも有効でしょう。

## 2. 単語テストの実施方法

単語テストのやり方は次の例のように何通りかあります。

- ・教師が単語を言って（発音して）、その単語を書かせる。
- ・訳語を見て、その単語を書く。
- ・単語を見て、その訳語を書く。
- ・教科書本文の穴埋めを行う。

私の単語テストのやり方を紹介します。その特徴は、語句を教科書で使われている文の中で提示し、文の中で書かせるということです。こうすることで、文の中のどの位置で使われる語句であるのかも覚えさせることができます。また、本文の音読を何回も行っているのだから、言えるようになっていることを書けるようにするというステップを踏んでいます。テストに出題する単語リストを配付した際、次の手順で覚えるように指示しています。

### 〈単語テストの出題例〉

#### ○事前に生徒に配付するリスト

・最近、紙くずを美しい紙に変えることを始めています。 ・この川は汚染されているので、人々はよく病気になるります。	・①These days, we're starting to ②turn ③waste paper into beautiful paper. ・ This ④river is ⑤polluted, so people often ⑥get sick.
---	--

#### ○単語テスト (単語は[                    ], 熟語は[[                    ]])で示している

・最近、紙くずを美しい紙に変えることを始めています。 ・この川は汚染されているので、人々はよく病気になるります。	・①[[                    ]], we're starting to ②[[                    ]] ③[[                    ]] paper into beautiful paper. ・ This ④[[                    ]] is ⑤[[                    ]], so people often ⑥[[                    ]].
---	--

①各文を音読し、言えるようにする。

②指定した語句を書けるように練習する。

ちなみに、既習語であっても、生徒の定着率が低い語や重要だと思う語に関しては何度でも出題するようにしています。

## 3. 相互採点の是非

「採点は教師が行うべきである。生徒のできないところや指導が足りないところを把握できるからである」という意見があります。その通りです。しかし、単語テストなどの小テストは生徒同士に採点させてもよいと私は考えています。「把握する」という点において、どの単語の綴りに誤りが生じやすいかは予測できるでしょう。また、生徒が書いているところを観察することでどんな誤りが多いのかを把握できます。生徒に他の生徒の丸付けを行わせると、「あ、この単語の綴り、わたし間違えた」などの声が聞こえてきます。つまり、採点をしながら単語の綴りを再確認していることになります。こうしたことから、採点も立派な学習と位置づけられます。

生徒が採点した小テストの結果を評価に入れてもよいかということですが、私はよいと考えています。単語テストは頻繁に行うものであり、また、丸付けも複雑ではありません。もし採点ミスが心配であれば、生徒が採点したテストをさらに他の生徒に確認してもらうなど、採点ミスを減らす工夫を試みてはどうでしょうか。ちなみに、教師にも採点ミスはあるはずで、小テストを採点することで多くの時間を費やすよりも、教材研究やワークシートの作成など他のことに費やした方が有意義だと私は考えます。

イラスト：深川 優



## とっておきの英語 18

津田塾大学大学院

野田 小枝子

And in this moment,  
I swear...we are infinite.

### 居場所探し

中学生・高校生の時に自分の居場所を必死な気持ちで探したことがおありではないでしょうか。大人になると忘れてしまうその頃の悩みや友達といた一瞬の幸せを思い出させてくれる映画です。

この映画の主人公のチャーリーは、大好きな叔母の急死に関わるトラウマがある、15歳の作家志望の少年です。ストーリーは、彼が架空の友人にあてた手紙の形で語られていきます。

高校生活の第1日目、これからの日々をなんとかやりすごそうと、チャーリーは高校最後の日を思い描くことにしました。

「あとたったの1,385日の辛抱だ。」とチャーリーは考えます。これはアメリカの4年制高校の話というわけです。

この気持ち、覚えがあります。ネガティブ思考ですが、学校生活には、生徒にとって我慢しなければならぬことが山ほどあります。

チャーリーにとってまず我慢しなければならなかったのは、友達ができるまでの間、食堂でランチを一人で食べることでした。4年生 (senior) である姉のキャンディスはボーイフレンドやクラブ仲間との食事をし、チャーリーは入れてもらえません。

国語 (英語ですが) のアンダーソン先生が読書好き、作文好きなチャーリーの一番の理解者です。

やがて、チャーリーに友達ができます。4年生のパトリックと、やはり4年生で、親同士が再婚したためパトリックの義妹 (step-sister) になったサムです。ここで面白いのは、チャーリーの親友になるこの2人

が1年生ではなく、4年生という設定であることです。日本の高校生のようにクラス単位での行動が高校生活の中心ではないので、他学年の友達を持つのも自然なことになります。

パトリック、サムとトラックで出かけた晩、お気に入りの音楽がかかり、サムはトラックの荷台に立ち上がり飛び立つように思いきり両手を広げます。

チャーリーはその自由奔放なサムを見て、すっかり幸せな気持ちになり、同時に自分の居場所が見つかったことを実感します。「どうしたの？」とパトリックに聞かれて、「I feel infinite. (無限を感じてるんだ。)」と答えるチャーリー。

### サムの進学を手伝う

サムにはクレイグというボーイフレンドがいて、チャーリーはサムが好きなのですが、最初はボーイフレンドになれませんでした。それでも好きな曲のテープを作って贈ったり、サムがSAT (大学進学適性試験) に失敗したと言うと、勉強を手伝って点数が上がるようにしてあげたりします。

SATは年に4回ほど行われるので、1回失敗しても同じ年にまた勉強をして受験することができます。映画の中で、4年生の友達アリスが「1,150点だからニューヨーク大学に行けると思う。」と言ったり、メアリー・エリザベスが「1,480点で私はハーバードよ。」と言ったりしている場面があるのですが、サムはきっとアリスの点数にも届かなかったのでしょう。落ち込んでいます。ようやくチャーリーの助けで1,210点が出て、ペンシルバニア州立大学から合格通知が送られてきます。

邦 題：『ウォールフラワー』  
原 題：The Perks of Being a Wallflower  
製作国：アメリカ合衆国  
製作年：2012年  
監 督：スティーブン・チョボスキー  
出 演：ローガン・ラーマン、エマ・ワトソン、  
エズラ・ミラー

主人公のチャーリーは、大好きな叔母を亡くしたトラウマを抱えていた。入学した高校でも友達ができずにいたが、やがてパトリック、サムという親友を得て、彼の生活は一変。しかし、上級生である2人が卒業して去っていくと、チャーリーは再び過去のトラウマにより辛い思いをすることに…。困難にめげず立ち向かう主人公と彼を支える親友の姿を描く心温まる物語。

SATはreading, writing and language, math, essayなどからなるテストで、複数の科目で出た合計点を用いますから、クレイグがアリスに「得点どうだった？」と聞くときも、“How were your SATs (=SAT scores)?”と複数で聞いています。

チャーリーは1年生ですが、4年生を教えるだけの力があるようです。SATの勉強を手伝ったお礼として、クリスマスにサムはチャーリーにタイプライターを贈ります。このストーリーの時代設定が、まだ電動タイプライターが普及する前、1970年代の半ばというのがわかります。

## 🎬 過去と向き合う

サムが大学生になって去っていくと、チャーリーには過去のトラウマが幻覚という形で現れ、「叔母さんは僕が殺したんじゃないの？」などと姉に電話をします。危機感を覚えた姉が警察を呼び、気づいたときにはチャーリーは精神科の病室にいました。

治療のために、チャーリーは思い出したくないこと、誰にも言えなかったことを医師に話さなくてはなりません。それもチャーリーには辛いことでした。

“ My doctor said we can't choose where we can come from, but we can choose where we go from there. I know it's not all the answers, but it was enough to start putting these pieces together.

(先生は過去は変えられないけれど、これからのことは変えていける、と言った。問題解決のきっかけには十分だった。)

## 🎬 トンネルを抜けて

やがて退院したチャーリーを、大学から休暇で戻っていたパトリックとサムが訪ね、ドライブに誘います。

サムが見つつけてくれたお気に入りの音楽をかけ、いつかのサムのように走るトラックの荷台に立ち、両手を広げるチャーリー。トラックはトンネルを抜け高速道路を駆け抜けていきます。

“ I can see it. This one moment when you know you're not a sad story. You are alive. And as you stand up and see the lights on buildings and everything that makes you wonder. And you are listening to that song on that drive with the people you love most in this world.

**And in this moment, I swear...we are infinite.**

(そしてこの瞬間、誓って言える、僕たちは無限だって。)

今回選んだのは、この映画の最後のチャーリーの語りの部分です。映画には同性愛に対する偏見、性的虐待といったトピックも含まれるのできれいごとだけでは話が済ませられないのですが、トンネルを抜けていくトラックの荷台で大きく手を広げるチャーリーを誰でも応援したくなります。ここでの音楽にはデヴィッド・ボウイの *Heroes* を使っていて、映画の余韻として印象に残ります。

(写真：PPS 通信社)

# TIL Some New Acronyms!

Peter J. Collins  
Tokai University



# 今ドキ

## 英語事情 20

さまざまなテーマについて、辞書に載っていないような今ドキの英語についてお届けする連載です。今号は英語表現の頭文字を組み合わせた頭字語を紹介します！

**BFF... ASAP... TGIF...** These acronyms are all well-established idioms in English. BFF (best friends forever) is thought to have originated in 1996, while ASAP (as soon as possible) dates back to around 1955 and TGIF (Thank God it's Friday!) to about 1946. The word *acronym* itself comes from the Latin *acro-*, or "beginning" plus *nym*, or "word/name" and describes terms formed from the initial letters in a title or phrase. And new ones are being coined all the time!

These days, texts and online posts often start with **TBH**, (To be honest,) or **IMO**, (In my opinion,). If you're hesitant to offer your view, you can use **IMHO**, (In my humble opinion,) or the more self-aware **IMNSHO**, (In my not-so-humble opinion,).

Current internet etiquette, or **netiquette**, has generated various acronyms that help you keep others informed. **YSK**, (you should know,) is a common one, for example, "We can go to that restaurant, but YSK, it's not vegetarian." **JSYK**, (just so you know,) is a variation of this; it seems to be replacing **FYI**, (for your information,), which has been in use for around 80 years. If you're unsure whether others have already heard about something you're posting, you can start your post with **ICYMI**, (In case you missed it,). Another way to introduce information that's new to you is **TIL** (Today I learned), for example, "TIL that tug-of-war was once an Olympic sport!"

**DAE** (Does anyone else) is an increasingly popular conversation opener; you can use this to find out if your own experience or behavior is unique, for example, "DAE think the

**TBH:**

正直に言うと。

**IMO:**

私の意見としては。

**IMHO:**

私の控えめな意見ですが、私見ですが。

**IMNSHO:**

私のあまり控えめでない意見ですが。

**netiquette:**

ネット上での  
コミュニケーションのマナー。

**YSK, JSYK, FYI:**

ちなみに、参考までに。

**ICYMI:**

もしあなたが知らなかったら。

**TIL:**

これは知りませんでした。

**DAE~:**

~するのは私だけですか。

Game of Thrones finale was terrible?” or “DAE make peanut-butter-and-pickle sandwiches?” Another way to share your reactions or routines is by posting a picture or short video with a caption starting with **MFW** (My feeling when) or **HIFW** (How I feel when). This morning I saw a photo of a sleepy puppy with its tongue hanging out; someone had added the caption “HIFW my BFF is talking about her new boyfriend.”

If you’re offering your opinion, especially about a health-related issue, but don’t want to be held responsible for your advice, **IANAD** (I am not a doctor) provides an important caveat. For example, you might write “IANAD, but I don’t think that grapefruit diet is the safest option.” Similarly, I’ve seen **IANAL** (I am not a lawyer) and the related **TINLA** (This is not legal advice).

On the other hand, if you’re presenting yourself as an expert on a subject, **AMA** (Ask me anything!) is a convenient acronym. *Ask Me Anything* is a series on the Reddit website, but AMA is beginning to replace **Q&A** (question and answer) elsewhere online. When asking an expert, you might use **ELI5** (Explain it like I’m five), as in five years old. This acronym also originated on Reddit and is a request for some advice or an explanation that is extremely easy to follow, for example, “ELI5; what is the best kind of mortgage to apply for?”

Back in 2012, I wrote an *IMADOKI Corner* article on acronyms. Since then, however, new acronyms have started to take on new usages. For example, **BAE** (before anyone else – pronounced “bay”) describes how important your romantic partner is. Traditionally and grammatically, you might say “My girlfriend’s name is Tina and she comes BAE.” Now it’s common to hear something like “My BAE’s name is Tina.”

DAE feel like it’s difficult to keep up with all these new acronyms?

#### **MFW~, HIFW~:**

~のときの私の気持ち。

#### **IANAD, IANAL:**

私は医者[弁護士]ではないので間違っているかもしれませんが。

#### **TINLA:**

これは法的助言ではないのですが。

#### **AMA:**

質問をなんでもどうぞ。

#### **ELI5:**

(私にも分かるように)とても簡単に説明してください。

#### **BAE:**

以前は「だれよりも先に」という意味合いで使われていたが、今では「だれよりも大切なパートナー」という意味合いで使われている。



第17回

まもなく締め切り!!

# 地球となかよしメッセージ

## 作品募集 (2019年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、  
写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に  
参加賞が  
もらえるよ!

応募資格 小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)

応募期間 2019年7月1日～9月30日  
詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。

作品  
テーマ

- ①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み
- ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること
- ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会  
◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞  
\*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

**教育出版**

「地球となかよし」事務局

TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

入選  
前  
回  
作  
品



地球を救う花

この地球を救う花は、まずお花なので二酸化炭素を吸って、酸素を出します。それに葉と花びらは太陽光パネルになっているので、発電も出来ます。さらに花びらの部分が風で回って、風力発電も出来る花です。

みんなが大好きな自然と地球が私達の何代も先の未来でも、愛されて続けるように、こんなお花が地球中にたくさん色鮮やかに咲くといいと思いました。(中学3年)

英語教育 通信 ONE WORLD Info (2019年 秋号) 2019年8月31日 発行

編集: 教育出版株式会社編集局

発行: 教育出版株式会社 代表者: 伊東千尋

印刷: 大日本印刷株式会社

発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)

URL <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



### なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F

TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509

函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング 3F

TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198

東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F

TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395

中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F

TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825

関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F

TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401

中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F

TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040

四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F

TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134

九州支社 〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡E室

TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140

沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F

TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411

表紙イラスト: QUESTION No.6

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」のっとり、配付を許可されているものです。